

令和6年度 第1回岡崎市有機農業推進懇談会 会議録

1 開催日時

令和6年6月20日（木） 15:40～17:00

2 開催場所

岡崎市役所西庁舎 7階 701号室

3 出席者（敬称略）

（構成員）

天野 砂田男：関係団体（JAあいち三河）

浦川 友紀：関係団体（Foods for Children岡崎代表）

糟谷 美枝：市民公募

鈴木 智：関係団体（岡崎安心野菜グループ）有機農業実践者（JAS）

谷川 彩月：学識経験者（人間環境大学）

中間 沙織：市民公募

平木 敦代：学校給食協会

藤山 尊司：関係団体（NPO法人おかざき農遊会）

矢田 哲臣：有機農業実践者（都市的地域）

山田 健一：有機農業実践者（中山間地域）

（オブザーバー）

矢田 純枝：有機農業実践者（都市的地域）

山田 明日香：有機農業実践者（中山間地域）

農林水産省：朽木 春菜

東海農政局：亀薦 政樹、渡辺 純子、高村 昭次、白藤 翔平、岡 善勝、紀平 明宏、
岡本 しのぶ

西三河農林水産事務所：西川 剛、河村 直紀

（事務局）

農務課：小林 哲夫、木村 理恵、杉浦 一子、柴田 莉奈

中山間政策課：小早川 侑

学校給食センター：酒井 啓滋、川合 弘晃

4 会議次第

(1) 挨拶

(2) 今年度の取組予定について

(3) 「農産物の環境負荷低減における見える化ラベル」の運用について

(4) その他

5 会議要旨

(1) 「今年度の取組予定について」、事務局から資料説明し、意見を依頼。

ア バケツ稲栽培について

○藤山氏

今回、岡崎市、JA、農遊会で、話し合いの場を設けさせていただいて、身近な子どもさんたちに、お米作りや農業のことについて知っていただくのは、何がいいだろうという相談をした結果、有機のバケツ稲栽培をやってみようと合意を得れましたので、皆様の御協力をいただきながら進めました。子どもさんたちに、お米を作りの大変さや、お米の美味しさを知っていただきたい。

イ 自動抑草ロボット（アイガモロボ）試験的導入について

○浦川委員

アイガモロボを導入している農家さんが、アイガモロボを導入しても、草が生えてしまっている状態です。自分は、有機給食の推進もしているボランティア団体に所属していますが、毎日複数人で長い時間をかけて、草刈りの手伝いに行っています。市も草が生えたらどうするかを一緒に考えてほしいです。

○山田（健）氏

自分の農園では、アイガモロボでは無いですが、現在紙マルチを使ってみており、草が生えなくて、綺麗な状況が保てられています。しかし、生物もいなくなってしまう、生物多様性からの点で良いのかは不明ではあります。生物は、いてもオタマジャクシくらいです。また、紙のマルチは高価で、少し何かあると使えなくなるのも難点です。他、米ぬかをペレットにしてみて、それを動噴で撒いたりもしています。

ただ、そもそもですが、草が生えても収量は落ちますが、最近のコンバインの性能は良くて、全て刈り取りして選別もできるため、そこまで、草を気にしなくても良いかもしれません。草がたくさん生えていても食味の良いお米ができます。

収量の点では、年数を重ねると状況が変わってくるので、様子を見ています。最初の年は2俵だったのが、翌年3俵にもなっており、草の状況も変わってきています。

○事務局

東海農政局様、アイガモロボで何かデータ等がありましたら、お願いします。

○東海農政局

他の市で実証されているところもありますが、まだデータ等を掴んでいない状況です。

○事務局

現在アイガモロボを導入して、実証している状況であり、一部効果があったという結果も出てはいます。現状は、初期除草が終わっての段階で、今後も検証していきます。

ウ 栽培指導者について

○山田（健）氏

有機農業の栽培技術指導で、自然農法国際研究開発センターを選定した理由は何でしょうか？栽培指導方法が合わないところがあり、地元で有機農業を既に実践している方から学びたい。

○鈴木氏

現在、有機農業実践されている方で、後継者を育てたいと話している方はいます。

○矢田氏

自然農法国際研究開発センターは、愛知県有機農業のネットワークで重要な構成メンバーで、自然農法の普及に貢献している団体であるため、そのような実績を見て考えても良いとは思っています。

○事務局

後継者というとは個別的な話になると思ひまして、全体的に指導していただけたところとして、自然農法国際研究開発センターを依頼しています。

(2) 「農産物の環境負荷低減における見える化ラベル」の運用について

ア 見える化ラベルについて

○事務局

今回の懇談会前に開催された見える化ラベルの説明会で、CO2の話だけでなく、農薬・化学肥料不使用の表記が必要ではないかという意見もあったかと思ひます。今日の説明会について、他にも皆様のご意見をいただければと思ひます。

まずは市内で組織的に取り組んだ方がよいのでは、消費者の方の意見も聞きながら上乗せして市での基準も作った方がよいのでは、とも考えております。また、シールを作って産直に出す農家さんを中心に試行的にやってみたらどうかも検討もしています。ご意見がありましたら、お願いします。

○浦川氏

見える化ラベルがあると、嬉しいです。環境への配慮も必要だと思いますが、子どもにおいても自分たちにおいても、農薬を使っていないものを食べたい、選びたいという思いがあります。ラベルができると、生産者の意欲も上がります。消費者も高くても買うと思ひます。

○山田（健）氏

確認ですが、有機農業ということで、無農薬では無いと思ひます。栽培には、どうしても農薬を使う必要がある場面があります。有機 JAS で認められる農薬は、自分は使っています。やはりそういったものを使わないと、どうしてもしっかりした栽培が成り立っていない。使った農薬は表示するようにしています。米については、完全に農薬を使っていないです。

○糟谷氏

病気になって、調べられて、無農薬を選びたい人はたくさんいます。朝開店前から並んで、そのような野菜を買いに行っている人もいます。ラベルで差別化ができますが、ラベルも、もっと段階を分けたりして色が三色か四色くらいで

わかりやすくなると良いと思います。

○事務局

生産者からの視点ですと、高く売れることが一番だと思われますが、有機 JAS を取得されている鈴木様、いかがでしょうか。

○鈴木氏

有機 JAS マークをつけて、慣行の野菜よりは高く売ってはいますが、見える化ラベルでいうと、ラベルをつけて、産直に並べて、何かが変わるのかなという疑問があります。

どうしたらいいかという、見える化ラベルが消費者に認知されて、アンケート結果通りの購買になれば良いと思います。あと問題かと感じることは、ラベルがついた農産物をわかりやすくお店にディスプレイをしてもらえるかということ、また売れ過ぎても物がそんなにないということ等です。市役所の方で、主導してもらって、例えばこのお店で、重点的にこのラベルをつけて販売していくというような音頭をとってもらえるならば、協力したいです。今のままラベルをつけたのみだと意味が無いと思います。

○事務局

販売方法等について、検討したいと思います。また、消費者がラベルを見て、少し高くても買いたいと思ってくれることも必要だと思います。そのあたりは農林水産省の方、何かありますでしょうか？

○農林水産省

消費者からは先ほどもご紹介しましたが、ラベルがあったから、環境に優しいということがわかり、購入したという声もいただいていることは事実ではあります。今後の消費者の購買傾向につきましては、国としても取り組んでいきます。

○山田（明）氏

私は、このラベルの話を聞いた時、とても嬉しかったです。今まで、何もつけていなかったのも、フル活用しようとすごく楽しみにしています。星がたくさんついているように、努力もします。

イ 給食での活用について

○事務局

給食協会は、見える化ラベルについていかがでしょうか？

○給食センター

協会としましては、3万5000食あまりの生徒の食材を預かっているということで量が大変多いため、そのようなラベルのついたものの使用ができたらいということがありましても、実際、必要量を揃えられるかという問題が前提にありますので、部分的に取り入れるか等の問題から始まるのではないかと思います。そのような取り組みが実施できたら、何らかの形でお知らせできたらいいかなと思います。

○山田（明）氏

有機の野菜を給食に使ってもらおうようになってきましたが、給食センターは、どのような基準があるか、どのような野菜が必要なかが、公開されていないので、もっと教えてほしいです。

野菜を納品するのに、給食センターに届けるまでに野菜が悪くなってしまわないかも心配です。給食センターに、運ばれた野菜用の冷蔵庫はありますか？

○給食センター

冷蔵庫がある施設もありますが、西部、南部については冷蔵庫が無いので、当日の朝持ってきていただいて、すぐ調理することになっています。

○山田（健）氏

一生懸命作った野菜なので、そのようなことを勉強してから、今後出していけるといいなと思いました。

○浦川氏

袋井市に先日見学に行かせていただいて、農家さんが JA さんの倉庫を使わせていただいていた。JA さんの倉庫で、給食に入れる野菜を保管させてもらうことができたらいいなと思います。

○天野氏

物流の関係で、ストックセンターを将来的には検討しております。やはり貯蔵施設が必要ということは農協でも理解しておりますので冷蔵庫を持っていますけれど、組合さんが使ってはもらえません。ただ給食用の野菜とかは、まだ入れていない状態です。

○愛知県西三河農林水産事務所

農薬は奥が深いです。有機 JAS でも使える農薬はあります。生物から由来する農薬もあります。色々な有機のかたちもあるかと思います。見える化ラベルでは、現在星3つが最高ランクですけど、無農薬だと星4つ等に増やしていくのも良いかかと思っていますので、国で検討していただけたらと思います。

ウ 全体を通して

○谷川氏

社会学の立場から言うと、市民の皆さんの意見を行政とどう繋いでいくかというところはかなり研究されてまして、まずこのような場が存在するということが1つ大きな意味だと思います。今日は特に地元の自治体の方も本庁の方もいらっしゃる、皆さんで顔を合わせられる場が存在することを、まず肯定的にポジティブに評価して良いと思います。

また、環境社会学の方の考え方で順応的管理というものがありまして、とりあえずやってみることも良いと思われれます。やってみて、何か不具合が生じたらそこでもう一度立ち返って、修正を重ねていくっていうようなやり方の方がむしろ現場、現実に即してるのではということ言われてきています。それを今回のことに当てはめると、一旦走り出して様子を見ながら少しでも皆さんにとってよりよい方向に1歩ずつでも進んでいって、駄目だったら1回止まってみるという勇気も持てるというのではとお話を聞きながら思いました。

○農林水産省

食料農業農村基本法を改正させていただいたということで、今後20年先30年先の農業に向けて、基本計画を作り、この先の農業、日本の農業をどのようにしていかうかをまた作っていかなければならないということになっております。今皆さ

んから色々いただいたご意見等も参考にさせていただきながら、農水省の方も、1
歩ずつ進んでいくような形になってまいりますので、また何卒ご協力のほどよろし
くお願いをいたします。

終了を宣言。